

社会福祉審議会検討分科会（第1回・第2回）での検討事項（案）

専門職からボランティア・互いに助け合う住民等まで、地域包括ケアに参加する「人材」の在り方と役割、新たな仕組み等について、現場の実態や既存の先進的な取組、東京の大都市特性や地域の多様性も踏まえ、幅広く検討する。

1 フォーマルサービスに従事する専門職について

（論点1）専門職の力の有効活用

- ・ 医療・介護・福祉の専門職が有する力を有効活用するためには、専門職が担うべき業務と、ボランティアや地域住民の力の活用が可能な補助的業務を明確化していく必要があるが、どのような方策が考えられるか。

（論点2）専門性に見合った評価

- ・ 専門職が長く働き続ける意欲を持つためには、専門性を高める仕組みや、専門性を評価する仕組み、キャリアアップの仕組みが必要であるが、どのような方策が考えられるか。
- ・ 人材の確保・育成を図るためには、専門性を給与等の処遇面や社会的評価、職業イメージの向上に結び付けることが必要であるが、どのような方策が考えられるか。

2 インフォーマルサポート等に参加する地域住民等について

（論点3）ボランティアや地域住民の力を引き出す方策

- ・ 誰もが活躍できる社会を実現するためには、現役世代や元気高齢者など幅広い地域住民が体力や時間の余裕に応じて、フォーマルサービスにおける補助的業務や、地域のインフォーマルサポートを担っていくことが有効であるが、自発的な参加を促すためにどのような方策が考えられるか。

3 フォーマルサービスとインフォーマルサポートとの連携

(論点4) フォーマルとインフォーマルの接合

- ・ 介護等が必要になっても、地域住民が地域で暮らし続けるためには、地域に存在する様々な資源を活用することが有効であるが、各種のサービス間や住民とサービスとの間を結び付け、コーディネートできる人材を確保するためにどのような方策が考えられるか。

(論点5) 専門性の地域への還元

- ・ 地域のコア人材や地域資源をコーディネートできる人材として、フォーマルサービスの担い手が、専門性やノウハウを広く地域に還元し、活躍することも有効と考えられるが、どのような方策が考えられるか。
- ・ 社会福祉法の改正により社会福祉法人が実施することとなる社会貢献活動や、企業のCSR活動などを地域で活用することも有効と考えられるが、どのような方策が考えられるか。

(論点6) 人材の好循環

- ・ フォーマルサービスとインフォーマルサービスの連携に当たっては、地域住民が希望に応じて専門性を習得して専門職として活躍したり、フォーマルサポートの担い手が地域のコア人材として活躍していけるようにすることも有効と考えられるが、どのような方策が考えられるか。